

◆授業設計のポイント◆

- ・ 生徒の実態把握と学習活動の工夫
- ・ 対人関係を築くための手立ての工夫
- ・ 生徒が学びを振り返る工夫

自立活動学習指導案

対象者 自立活動グループ(男子2人, 計2人)

場 所 総合学級3組教室(3年校舎1階)

授業者 教 諭 新 西 祥 文

1 活動名 自分や相手を尊重し意見を交わそう

2 活動について

(1) 題材設定の理由

本グループは、自閉症・情緒学級の2年生男子2人で構成されている。入学時から意欲的に学校生活を送っており、楽しく学校生活を過ごしている。生徒Aは、視野狭窄弱視を持っており移動等に困難があるが、社会的で自分から積極的に人との関わりを持とうとする姿勢がある。部活動にも参加し、異学年の生徒との関わりにも意欲的である。同学年の生徒や先輩との関わりの中で、距離感がうまくとれずに、様々な問題が生じることもあるが、冷静になると自分を振り返ることができ、反省の気持ちを持つことができる。しかし、相手の気持ちを気に掛けずに自分の思いだけで接したり、発言したりしてしまうことが少なからずある。また、自分の過度な思い込みで、相手の発言や行動を気にし過ぎることもあり、そのことで悩んでしまうこともある。生徒Bは、物静かな性格で、Aとは対照的に自分から積極的に人の輪の中に入ろうとしたり、あるいは関わろうとしたりすることができない。また、自分の気持ちを相手にきちんと伝えようとする意思も弱い。話をするときに単語だけで伝えようとする事が多く、うまくコミュニケーションを図れないことが多い。2人が抱えている困難の要因として、学校生活の中で対人関係をうまく作れないことや、自己肯定感が低く、自信を持てなかつたりすることが考えられる。そこで、自分の困難を知りながらもできるようになったことを見つけたり、また他人から教えてもらったりすることで自己肯定感が高まり、それが少しずつ自信につながっていくと考える。

本活動では「他者との関わり」や「自己理解」、「状況に応じたコミュニケーション能力の育成」を、学校行事でもある弁論大会、また国語の授業と関連付けて行う。自立活動を行う中で、「自分の考えを持ち、意見を発表する」ことや「他人の意見を聞いて意見交換をする」といった活動は、国語の授業や弁論大会と関連性があり、子どもが普段の授業や学校生活の流れの中でスムーズに活動し、成長できるものと考えた。この課題に取り組む学習を通して、自分自身の考えが具体化され、それに向けて自分の考えや発言、行動を考え、実際の生活に生かそうとする意識も育つのではないかと考える。

学習を通して、対象生徒は自分の考えを書いたり発表したり、また、相手の考えを聞くことによって思考を深め、自身の自己肯定感や自信を高められ、そのことが今後の成長につながると考える。

(2) 生徒の実態

【生徒A】

①生徒の実態

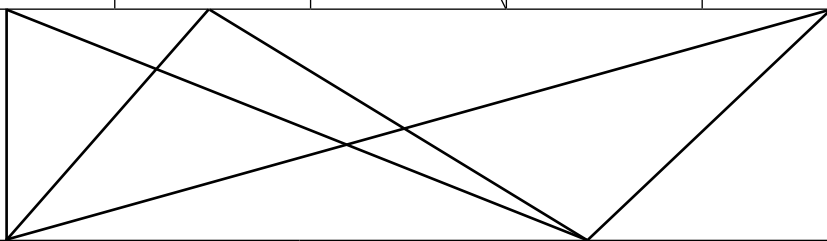
- ・ 視野狭窄弱視のため、移動や階段の昇降に時間がかかる。黒板の文字が見えづらい。
- ・ 自分の思いをうまく処理できなかつたり、伝えられなかつたりすると興奮状態になることがある。
- ・ ストレスがたまるとパニックを起こすこともある。
- ・ 過去の失敗体験を思い出し、自分の勘違いからトラブルを起こすことがある。
- ・ 周囲の状況に関係なく自分の好きなことを話す。
- ・ 自分の意見や、人に伝えたいことを要約することが困難である。
- ・ 周囲の状況を把握できず、自分のリズムで発表してしまう。



指導目標（優先目標）
自分の意見をしっかりと持ち、気持ちをコントロールし、人前で明確に伝えることができるようになる。



健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
/	(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること	/	(4)身体の移動能力に関すること	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること



具体的な指導内容の設定	
興味・関心を持っている事項や日常会話に関連のある事項を用いながら、他者と関わる際の具体的な方法や、適切な意思伝達方法を身に付けさせる。	自分自身の力で達成できる活動内容を設定し、自己肯定感を高めるようにする。

【生徒B】

①生徒の実態

- ・ 生活のリズムが不規則で清潔衛生に関する意識が低い。
- ・ 物事の興味・関心が低く、活動への取り組みも消極的である。
- ・ 様々な場面において意思表示をすることが少なく、自己肯定感が低い。
- ・ 基本的な日常会話が十分身につけていない。自分の気持ちや考えを表現することが苦手で、友達とのコミュニケーションも成立しづらい。
- ・ 自分の意見や、やりたいことを実行することが困難である。
- ・ 発表することが苦手で声が出せない。また、人の意見をじっくりと聞くことが困難である。



指導目標（優先目標）

自分の意見をしっかりと持ち、適切な表現で明確に伝えることができる。



	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)生活のリズムや生活習慣に関すること	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3)自己の理解と行動の調整に関すること			(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容の設定

生活経験の言語化，体験と言葉の関連付けなどを行いながら，基本的な日常会話の習得を図り，言葉を生活の中に活かせるようにする。

設定した学習活動をできるだけ自力で意欲的に達成することによって，自信を高められるようにする。

3 活動の目標

- ◎ 弁論大会を通じて、自分の意見を表現し、より良い方向性を見つける。
- (1) 自分の意見を書いたり、発表することができる。
 - (2) 人の意見を参考に、より良い方向性を考えることができる。

4 指導計画（全8時間）

次	学習内容	時数
1	自分の決めたテーマについて考え、お互いの意見を交わしてみよう。	1
2	テーマについて弁論を書き、人に伝える書き方を考えてみよう。	3
3	自分の弁論を集中して清書し、仕上げてみよう。	2
4	自分の弁論を人に分かりやすく伝えられるように発表してみよう。（本時）	1
5	お互いの弁論を読んだり、聞いたりして、感想を出し合い評価しよう。	1

5 本時の実際

(1) 目標（評価規準）

① 全体目標

自分の意見を明確に伝えることができるようになる。

② 個人目標

生徒A	ア 自分の考えを分かりやすく人に伝えることができる。 イ 集団の中で発表する態度を身につける。
生徒B	ア 自分の考えをしっかりと持ち、声に出して人に伝えることができる。 イ 集団の中で発言することができるようになる。

(2) 授業づくりの視点

ア 生徒の実態把握と学習活動の工夫

研究の視点1

学校行事である弁論大会に合わせて、自立活動を行う。自立活動の中で、国語的な要素を絡めて生徒の達成感や自己肯定感を育てていく。学習内容によっては「書く」作業（様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表すとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる）等、国語的な内容が多く含まれる分野もあるが、国語の発表と関連付けて行うことで国語力も深まり自立活動の課題も深まる。また、動画をリハーサルや振り返り、次時の導入で利用し、生徒がより分かりやすくまた、楽しく学ぶことができる工夫をする。

イ 対人関係を築くための手立ての工夫

研究の視点2

前時の評価を動画で確認したり、それぞれの弁論を発表するときは、相手の気持ちや考えを尊重しながら、参考にできるように言葉掛けをする。また、動画や画像で自分や相手の作品・発表を見て、意見を出し合う場面を設定する。

ウ 生徒が学びを振り返る工夫

研究の視点3

毎時間の成果を動画で撮影し、次時の導入で自分が成長した内容を確認する。また、自分の弁論を発表することで、それぞれが本活動の学びを振り返ることができるようにする。

(3) 本時の展開

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点および生徒の活動の様子, および支援の手立て ◎評価 ※授業設計の工夫	
		A	B
導 入 10 分	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返り, 本時の学習目標を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の意見を明確に伝えることができるよう練習しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正して座り, 話し手の目を見るように言葉掛けをする。 前時の学習を動画で振り返り, 自分の成長を確認し, 自信を持って本時の学習に取り組めるようにする。 本時の学習を知り, 学習に対し意欲が持てるようするために音読する。 	
	3 個別の目標を考えて書く。	<ul style="list-style-type: none"> 前回のワークシートを教師と確認し, 今回自分ができそうなことを考え, 目標を立てる。 自分の目標を教師と確認してワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の反省を生かして, 今回の内容で自分ができそうなことを探して, 目標を立てる。 自分の目標をワークシートに書き込む。
展 開 30 分	4 自分の作品を声を出し発表する練習をする。 (1) 注意点の確認 (2) モデルの確認 (3) 練習, リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> 弁論大会のビデオを見て発表の良い例を学ぶ。 視点1 視点2 どのように発表したら自分の意見が伝わるか考えながら練習する。(目線, 声の大きさ, 声の強弱, 身振り手振り等) 	
		<ul style="list-style-type: none"> 早口にならないように注意して練習する。 発表する態度も注意して練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に練習する。 集団の中でも自信を持って発言できるよう練習する。
	5 相手に自分の意見が伝わるように実際に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見, 作品に自信を持ち, 堂々と発表できるようにする。 相手の作品を聞く態度もしっかりできるようにする。 ※ お互いの発表をビデオで撮影し, 振り返ってみる。 視点1 視点2 	
		<ul style="list-style-type: none"> 相手の発表の仕方に対して良かった点を出し合う。 相手の意見を聞いて, 自分に参考になった点をまとめる。 ※ お互いの感想をビデオで撮影し, 振り返りと次時の導入に使用する。 視点1 視点2 	
終 末 10 分	6 本日の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の反省を記入し, 振り返る。 ※ 友達との話し合い活動を振り返り, 評価をする。 視点3 	
	7 活動した内容を確認し, もう一度発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見や前回の自分の発表を参考にして, 再度発表してみる。 	
	8 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の活動で良かったものを次回も生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の反省を生かして, 次回に臨むことができるようにする。
		◎ 本時の具体的な頑張りを挙げ, 称賛の言葉掛けをする。	